

令和3年度 戸山の森のようちえん おてんとさん 活動報告書

1、環境構成 2、子どもの育ち

環境を自分達で作る

「自分達の卒園式」

おてんとさんでは年間通して日常的に自然の中で自分で遊びを作り出して遊んでいます。

遊びの中で経験してきた「自分で考える、作り出す」

それを発揮した卒園式となりました



今年度の卒園式で年長さんは自分達の卒園式を自分達で作りました。

毎年、どこの森で卒園式をするのかそこから自分達で決めます

昨年度、年長さんが途中から正装したいという思いがありそれを実現しました

(おてんとさんでは森の中で卒園式を行うのでいつもの森遊びの格好で行っています)

それを見ていた今年の年長さん。

「自分達も正装したい」

「会場を自分達の思うように作りたい」

「会の最後にはサプライズで手紙を隠して見つけてもらいたい」

いろんなアイデアがでてきました。

ただ参加するだけではなく、「自分達で作る！」という気持ちが卒園式の日が近付くにつれて大きくなっていき
ました。

年長児は4名

1つのことを思いついたら「こうしない?」「これはどう?」

4名で話し合います

「いいね!」「じゃあこうしたらいいかも」

前日にこんな流れで卒園式をするよ とやってみると

「入場する時に花を持って入場したい」

「じゃあこの後に手紙を隠して探してもらおう」

イメージがどんどん固まってきました

式の当日まで準備してきた年長さん

当日の朝は緊張していましたが、自分達の卒園式!という気持ちは強く

参加者の皆さんにお祝いしてもらい、自分達の卒園式をおこないました

いつも取り仕切っていた子が緊張のあまり、一番に入場するのはイヤだと言えば

「じゃあ私がいくよ」

とフォローして自分達で順番を決める

緊張して話ができない子がいれば

「私が先に言うよ」と気遣い合う

卒園証書を探しに行く時に子どもだけで行くのは怖い・・・と言えば

「じゃあ探してきてあげるよ!」「最後にきていいから手をつないで行こう」

と気持ちに寄り添う

(おてんとさんの卒園式では森に隠してある卒園証書を年長さんだけで探しに行く冒険があります)



4名の年長さん1人ひとりが尊重し合う姿が光る式となりました

式の終わりには自分達の式をやり遂げた、充実した顔の年長さん

卒園式の日で大きな成長を遂げました

それをお祝いする全員で見届けることができました

おてんとさんの毎日の遊びの中で培ってきた

ゼロから作り出す力、仲間に寄り添い、助け合う絆

それが根底にあるからこそその卒園式となりました



3、保護者理解に向けた取り組み

月に一度、保護者の方と一緒に活動をする日を設けています（母の参加が多い）

活動内容は 主に森の整備、森遊び

普段子ども達が遊んでいるフィールドで過ごすことで、子ども達の育ちや、関わりを知ることができます
また、保護者同士の交流やつながりが深まる機会でもあります

その他前年度から始めたのは

毎月、担当を決めて何をするか企画してもらうこと

得意な分野や、やりたいことを保護者さんが考えています

絵の具遊び、ダンス教室、とんど、畑作業など

親子で楽しめることを企画する中で

保護者同士の関わりも深まり、相互理解にもつながりました

また、自分の子だけではなくみんなでおてんとさんの子を育てる

そのような雰囲気にもつながっています

また、年に二回6月と2月にお父さんの日を開催

土日で参加しやすい日程にしてお父さんと森に行っています

2月には一番寒い森に行き、こんな寒い中でも

楽しい事をみつけて遊ぶ姿をしっかりと見て体感してもらっています

どちらの日も最後には振り返りの時間を持ちます

その日に感じた事、子どもの成長などを共有し、自分と向き合う時間となります

